

■平成25年度 通常総会が開かれる 患者さんとの交流事業やケアフード活動など9件承認

5月24日、千葉市文化センターで平成25年度通常総会が開かれました。患者やご家族、医療スタッフが交流を深める活動や、医療と福祉の連携事業、ケアフード活動など9件の事業計画が承認されました。竜崇正理事長は「患者さんの希望や要望、願いに常に耳を傾けていけるNPOにしたい。最先端の治る医療とともに、患者さんの意見を学問的に評価できるような研究も進めていきたい」とあいさつしました。

総会に続いて、平成24年度「患者と家族のがん研究基金」の実績報告会を開催。発表したのは、千葉県がんセンター研究所越川信子氏（発表代理・永瀬浩喜氏）、千葉県がんセンター栄養科佐々木良枝氏、千葉県オストミー協会村山輝子氏の3氏。低線量のX線による腫瘍抑制効果の有無や、がん患者さん向けの入院食の工夫、オストメイトの日々の食事にかかわる悩みを調査したアンケート調査などをテーマに研究成果を披露しました。



↑あいさつする竜理事長

■千葉県がんピア・サポーター養成研修事業の委託・協力 患者体験者や家族が5日間の研修会を受講

H24年11月からH25年2月にかけて、千葉県がんセンターを会場にがん体験者や家族を対象とする「千葉県がんピア・サポーター養成研修会」が開催されました。千葉県地域統括相談支援センターが主催し、当NPOは業務の委託を受けて開催に協力しました。32人が5日間にわたってがん医療の現状や乳がん、大腸がん、肺がんなどの治療法といった基礎知識を学んだほか、あふれる医療情報の取捨選択のノウハウを身に着けました。また、相談者の話に耳を傾ける傾聴やカウンセリングのワークショップなどに取り組みました。

受講生は実際に千葉県がんセンターなどが診療連携拠点病院で開かれているがんピアポーターズサロンにも参加し、具体的に患者さんに接した場合にどのような対応を心掛けると良いかについて検討しました。がんを体験したピア・サポーターは、患者さんにより近い立場として、治療を続ける際の悩みや不安に寄り添い、退院後の生活を送るうえでのアドバイスができる人材として千葉県でも育成が進められています。今回、養成研修を終えた受講生は、今後は県内各地で開かれるサポーターズサロンに出向いて相談活動を続けて行く予定です。



↑研修を受ける受講者

■アメリカ・イエール大学で医師4人が研修 心臓血管外科の手術を見学、カンファレンスに参加 ハイテクを駆使、合理的・効率的な医療を目の当たりに

県内の医師や看護師を海外の病院に派遣する海外研修事業。H24年度は10月21日～28日まで8日間にわたり、アメリカ・コネティカット州にあるイエール大学ニューヘイブンホスピタルに4名の医師を派遣して行われました。

イエール大学はアイビーリーグ所属で、ニューヘイブンホスピタルは医療機能評価機構から全米ベストにランクされるほど評価の高い病院です。研修は、外科手術の見学やカンファレンスへの参加、現地スタッフとの交流など早朝から盛りだくさんのスケジュールで進められました。60ある手術室がフル回転で稼働しており、ハイテクを駆使して合理的で効率的に行われていたようです。カンファレンスでの活発な意見交換が後進の育成にも役立っている様子も目の当たりにしました。



↑研修に参加した医師4名

●H25年度はアメリカ・オハイオ州のクリーブランドクリニックで研修を計画

平成25年度の海外研修は、アメリカ・オハイオ州のクリーブランドクリニックにて、11月9日～17日まで実施する予定です。